



過去というキャンパスに
未来というカラーを

特定非営利活動法人 D×P（ディーピー）

2012 年度 年次報告書

ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる社会へ

NPO 法人 D×P（ディーピー）は、2010 年より活動を開始しました。
そして、昨年度は NPO 法人格を取得し、法人としての活動がスタートした一年でした。

2012 年は NPO 法人 D×P にとって飛躍の一年でした。
通信制高校向けキャリア教育プログラム「クレッシェンド」が通信制高校へ本格的に導入され、
約 50 名の通信制高校生にプログラムを届けることができました。

初めは、「やりたいことなんてない」と口にしていた生徒が、プログラムが終わる頃には、
「自分も何かやってみたい」と口にする姿には胸を打たれるものがありました。
そして何より、高校生の持つ可能性に改めて気付くことができた一年でした。

また、高校生の可能性を引き出すことができたのは、
コンポーザーと呼ばれる協力者の存在があるからです。
18 歳から 39 歳までの大人が教育の現場に参加し、
高校生と共に対話をする中で、高校生はもちろん、コンポーザーも変化していきます。
高校生もコンポーザーも変化する背景には、「基本 3 姿勢」と呼ばれるものの存在があります。

この「基本 3 姿勢」とは、
① 否定しない②年上、年下から学ぶ③様々なバググランドから学ぶ
ことをさします。

私たちは設立当初からこの基本 3 姿勢を大切にし、そして現在も活動を行っています。

今後 NPO 法人 D×P としては、
キャリア教育プログラム「クレッシェンド」をより多くの通信制高校生に届けると共に、
新たに彼らが挑戦するための機会として「フォルテッシモ」と呼ばれるプログラムを
開始する予定です。

私たちは、
ひとりひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会を創るべく、
引き続き事業に取り組んで参ります。
今後ともご支援、ご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。

共同代表 今井 紀明

D×P ストーリー

－「若者のために何かしたい」－

2010年3月。4月からの新社会人生活を控えた今井、就職活動を終えたばかりの大学生の朴は「若者のために何かしたい」と話していました。「もっと若者の可能性が最大限に引き出される社会をつくれませんか」「若者が未来に希望を持てる社会をつくれませんか」。何からやればいいかわからない。けれども、まずは行動をしてみよう。

何もわからない中でNPO法人D×Pの前身団体であるDream×Possibilityは設立されました。

－今井と朴の原体験－

今井と朴が「若者のために何かしたい」と思った背景には、2人の強い原体験がありました。

今井は、高校生の時にイラクの子どもを支援するための医療支援NGOを設立しました。その後、イラクへ渡航をしましたが、そこで人質となり日本へ帰国。俗に言われる、「イラク人質事件」の当事者だったのです。

日本へ帰国するや否や、「自己責任」という言葉の名の下、社会からバッシングを受けた結果、今井は対人恐怖症になってしまいました。約5年のふさぎ込んだ時間を乗り越えて、今井はようやく社会との関わりを取り戻しました。

朴は、高校時代に中高一貫校を中退し、アメリカの高校への留学をしました。そこでは、教師と生徒が活発に議論し、日本の学校にあるような上下関係のない教育を知りました。帰国後、両親の離婚による経済困難が続き、大学へ進学することはできず、3年間ニートやフリーターの生活を経験しました。気付けば、孤立し、一度落ちてしまうなかなか戻れない社会の構造を、身を持って経験したのです。

－立命館アジア太平洋大学での出会い－

そんな今井と朴は、立命館アジア太平洋大学(APU)で出会いました。

立命館アジア太平洋大学は、学生の半分が留学生で構成されている珍しい大学です。

そこで、今井と朴はなにより「多様性を認める」ということを学びました。

大学での様々な経験をしていくなかで、今井と朴は少しずつ社会への関わりと取り戻していくことになりました。

「自分たちは随分周りの人たちのおかげで社会復帰することができた。

社会全体が、こんな風に支えたり、可能性を引き出す社会をつくれませんか」

そんな想いが二人の中で大きくなっていきました。そして、私達は今井の卒業を機に団体を設立することにしました。

－イベントから事業へ－

「若者のために何かしたい」と想いの中、今井と朴は「ユメブレスト」と呼ばれる多様な世代や職業の方が集まり、ブレインストーミングを行う集まりを大阪ではじめ、和歌山、そして奈良でも開催をしていきました。



(写真はユメプレストで自分の目標を話す参加者)

毎回多くの方から「この試みは続けてほしい」というお言葉を頂きました。
一方で回数を重ねるにつれて、「これは本当に社会全体を変えることができるのだろうか」「自己満足じゃないのか」という疑問が2人の頭に浮かぶ様になりました。そんな疑心暗鬼に落ちているときに、ユメプレストに参加した高校生のある言葉が2人にヒントを与えたのです。

「高校のときに、もっと早いときに、こういった多様な人と出会える場、肯定してくれる場、夢や目標を考えられる場に参加したかった」

この言葉をきっかけに、高校で開催のために行動が始まり、「イベントではなく、事業としてやっていきたい。」そんな想いが日に日に強くなっていきました。

—通信制高校生との出会い—

様々なご縁を頂く中で、ある通信制高校でのキャリア教育のプログラムを開催しました。
そこに参加する生徒は、なぜかみんな元気がなく、人と話すことを避けている、そんな印象を受けました。
イベントが終わり、様々なことを調べていくのちに通信制高校に通う高校生の問題を知ることになりました。



(通信制高校での初めてのプログラムの様子)

「転編入学者は6～7割、中学時代の不登校経験者が4割、そして卒業後に2人に1人が進学も就職も選ばない」
この問題を知ったとき、私たちはこの問題を解決すること、
ひいては教育という観点から若者が希望を持てる社会を創っていきたくないと決めたのです。

通信制高校でのキャリア教育のプログラムも最後の回を迎え、ある生徒がこんな事を言いました。
「価値観が180度変わりました。今までの授業の中で一番衝撃を受けました。」
そして、終わりの回を迎えた教室では多様な世代の大人と高校生が楽しく、
自分の将来について話している姿がありました。NPO 法人 D×P の挑戦はここからはじまったのです。

キャリア教育プログラム「クレッシェンド」



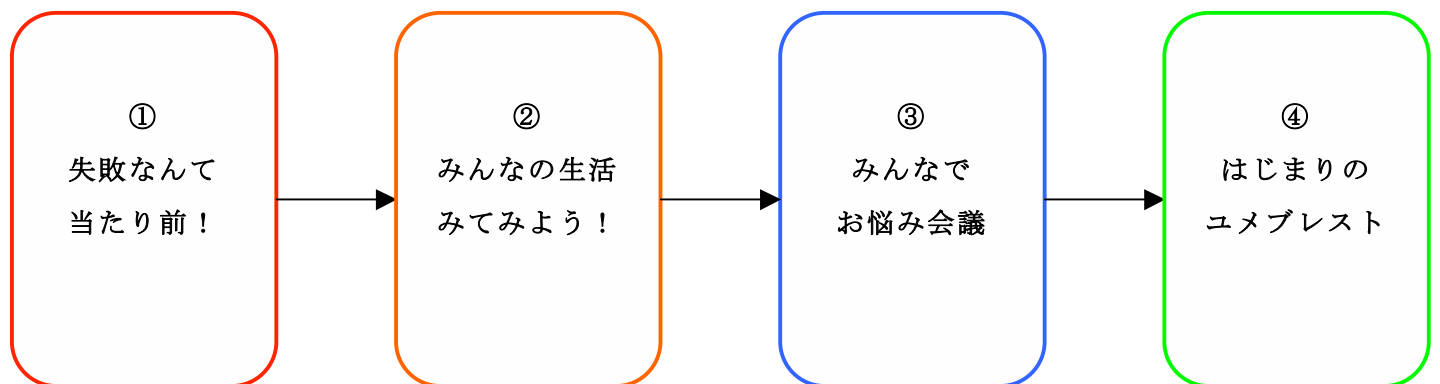
キャリア教育プログラム「クレッシェンド」は、通信制高校に通う生徒を対象に行われるプログラムです。

プログラム名である「クレッシェンド」という言葉は音楽記号に由来します。音楽記号では、「音が少しずつ大きくなる」という意味ですが、私たちは「生徒の可能性が少しずつ大きくなっていくプログラム」という想いをこめてこの名前を選びました。

このプログラムは3ヶ月で4回のプログラムを行います。(下記参照)

プログラム前半で様々な人の話を聞き、ロールモデルを発見し、プログラムの後半では実際に自分のやってみたいことや興味があることについて相談をし、自分自身の言葉でアウトプットをします。

(プログラム例)



この授業で、生徒はコンポーザー（説明は後述）さんの過去の失敗が、現在にどのように落とし込まれているかを知る事ができ、自分の経験を相対化します。

1回目で少し知った大人が実際にどんな生活をしているかを知る時間です。意外と知らない仕事や大学のこと。色々な選択肢を知るきっかけをつくります。

色々な話を聞いて、次は生徒自身が自分のことを考える番。自信はないけれども、少しでもやってみたいこと、考えていることを大人に相談する時間です。

全ての授業の締めくくりです。色々な話を聞いて、実際に自分のやってみたいことを相談して、今自分はどんなことをしたいのか、などを発表する時間です。

コンポーザーという存在



©Hiroshi OKAMOTO

キャリア教育プログラム「クレッシェンド」を運営する際に欠かすことのできない存在。

それが「コンポーザー」です。コンポーザーという言葉は本来オーケストラなどの指揮をとる人のことをさしますが、当団体のプログラムでは、「可能性を引き出すための伴走役」という意味合いにおいて関わって頂いております。

コンポーザーは、当団体の面談、そして研修を終え、何より「基本三姿勢」にご共感頂ける方 18 歳から 39 歳の大学生／社会人の方にご参加いただいております。基本三姿勢とは、**①否定しない②年上、年下から学ぶ③様々なバックグラウンドから学ぶ** の3つから構成される、当団体が最も大切にしている姿勢を指します。

実際参加された方々から下記のようなメッセージをいただいております。

参加されたコンポーザーの方の声



(川畑雅哉さん/SE)

私は仕事で教育に関わる機会があったのをきっかけに、クレッシェンドに参加しました。高校生と一緒に車座になりながら、自分の過去の経験を話したり、高校生の想いを聞くといった経験は貴重なものであると同時に自分のこれまでの出来事を振り返る良いきっかけになりました。

コンポーザーにとっては内省とプレゼンテーションの機会を、高校生には普段接する機会のない大人と継続的に関わる機会を。クレッシェンドは社会と教育の接点を提供していると感じています。

「できない」から「やってみたい」を生み出すクレッシェンドの魅力は、自己肯定感を高めていくことにあると思います。中にはつらい経験、気持ちを抱えた生徒さんもありますが、皆一生懸命大人と向き合い、過去や現在の自分と向き合う中で、日々変化していきます。その力強さには正直圧倒されますし、変化をそばで見られるのはとても嬉しいです。また、生徒さんやコンポーザーさんとの対話の中で、自分自身も大きな気づきを得られるのも魅力です。プログラムに参加する皆で、共に成長していけたらと思っています。



©Hiroshi OKAMOTO

(富永友香里さん/
食品メーカー勤務)

その他の事業

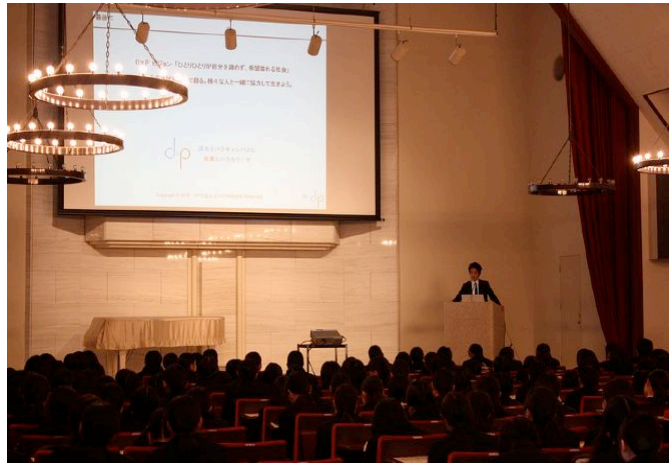
当団体では、ビジョン達成に向け、キャリア教育プログラム「クレッシェンド」の他に様々な活動に取り組みました。

講演活動

共同代表の今井が
全国各地で講演を行いました。

講演させて頂いた数としましては、
約40回の講演をさせて頂き、
多くの方に若者の問題、事業の説明などを
させて頂きました。

2013年度も、問題発信のために
引き続き講演活動に取り組んで参ります。



中退予防事業

大学生／専門学校に通う生徒の中退を
予防するために、美容専門学校様への
キャリア教育及びコンサルティングを実施
させて頂きました。

2013年度も、学校様と協働しながら中退
者の予防に向けて事業に取り組んで参
ります。



アート展の開催

大阪府立寝屋川高校 定時制の課程の生
徒さんによるアート展を実施致しまし
た。

こちらの取り組みは、今年度も引き続き
行う予定であり、定時制高校の現状を伝
える場にしていきたいと考えておりま

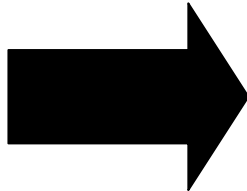


マンスリーサポーター

2012 年度は設立初年度にも関わらず、多くの方にご支援を頂きました。

毎月 1000 円からご支援可能なマンスリーサポーターの方のご支援によって、通信制高校生へのキャリア教育プログラム「クレッシェンド」、そして生徒自身がやってみたいことを挑戦する場を届けることができました。

毎月 3000 円のご支援の場



毎月 3000 円のご支援で
一人の高校生が
やってみたいことを挑戦する
機会を届けることができ

マンスリーサポーターになって頂いた方には、

- ・年次報告書のご送付
- ・年次事業報告会へのご招待
- ・当団体主催のイベント参加費の割引

等の特典がございます。

マンスリーサポーターは、クレジットカード及び口座振替でのお申し込みが可能です

- ① ウェブで、「NPO 法人 D×P 寄付」で検索！
- ② <http://www.dreampossibility.com/donation-private/>へアクセス！

ご支援頂いた団体・企業様

設立初年度にあたって、経営支援からご寄付まで様々な形で団体・企業の皆さまにご支援を頂きました。



NPO 法人 ETIC. 様
社会起業塾イニシアティブ「花王起業塾」にて経営支援やメンタリングなどのご支援を頂きました。



株式会社 水晶院 様
当団体設立にあたって、クレッシェンドプログラムへのご寄付を頂きました



NPO 法人サービスグラント様
当団体のウェブ改訂にあたって、プロボノプロジェクトを通して、プロボノワーカー様のコーディネートなどをご支援頂きました。

株式会社トビラ企画 様
 高校生のアート展開催にあたってのコーディネートやスペースの提供にご協力頂きました。

NPO 法人 edge 様
 ビジネスプランコンペ edge2013 を通じて、経営支援やメンタリングなどのご支援を頂きました。

メディア掲載／受賞歴

当団体の活動をより多くの方に知って頂くために、情報発信に力を入れてまいりました。また、事業としての価値を様々な形でご評価頂きました。

メディア掲載

〔新聞〕

- 2012.5 毎日新聞（大阪版）「生徒全員で卒業を」
- 2012.7 イギリスFinancial Times" Japan's Ice Age"
- 2012.11 大阪日日新聞「将来設計能力育てる」
- 2012.12 神戸新聞（夕刊）「通信制高生支援NPOを設立」
- 2013.1 東海愛知新聞 「一足先に大学生活」
- 2013.4 朝日新聞（夕刊）「自己責任の嵐越えて」
- 2013.5 北海道新聞（朝刊）「聞く語る」

〔テレビ〕

- 2011.11 ABC朝日放送「キャスト」にて放送
- 2013.3 NHK「関西熱視線」にて放送

〔雑誌〕

- 2012.12 「月刊学びREVIEW」
- 2013.7 「婦人之友」

受賞歴

- 2011.6 NPO 法人 ETIC.「ソーシャルベンチャースタートアップマーケット」第3期生選出
- 2012.8 社会起業塾イニシアティブ「花王起業塾」へ選出
- 2012.12 ソーシャルビジネスコンペ近畿2012一般部門にて「準グランプリ」を受賞
- 2013.2 ビジネスプランコンペ edge2013 にて「優勝賞」を受賞

団体概要

団体名：特定非営利活動法人 D×P

設立：2010年3月（2012年6月法人格取得）

住所：大阪府大阪市城東区蒲生2丁目11-37 コトブキビル301

職員数：7人（うち社員3名、学生インターン3名、社会人プロボノ1名）

役員 代表理事：今井 紀明

副代表理事：朴 基浩

理事：村中 直人（一般社団法人子ども・青少年育成支援協会）

監事：毛受 芳高（一般社団法人アスバシ教育基金）

ビジョン

（私たちの目指す社会）

ひとりひとりの若者が
自分の未来に希望を持てる社会

-沿革-

- 2010.3 共同代表 今井と朴が 任意団体 Dream×Possibilityを設立
- 2010.4 様々な世代が交流するイベント「ユメプレスト in 大阪」を開催
- 2010.12 「ユメプレスト in 和歌山」を開催
- 2011.6 NPO法人ETIC.「ソーシャルベンチャースタートアップマーケット」第3期生選出
- 2011.8 「ユメプレスト in 奈良」を開催
- 2011.8 団体初となる通信制高校でのキャリア教育「クレッシェンド」（第1期）を開催
- 2012.5 キャリア教育プログラム「クレッシェンド」（第2期）を通信制高校にて開始
- 2012.6 NPO法人格取得(NPO法人D×Pへ改称)
- 2012.8 社会起業塾イニシアティブ「花王起業塾」へ選出
- 2013.1 キャリア教育プログラム「クレッシェンド」（第3期）を通信制高校にて開始
- 2013.5 キャリア教育プログラム「クレッシェンド」（第4期）を通信制高校にて開始
- 2013.5 大阪府城東区蒲生へ事務所を移転



特定非営利活動法人 D×P（ディーピー）

〒 536-0016

大阪府大阪市城東区蒲生 2 丁目 11-37 コトブキビル 301

TEL : 06-6935-6111

<http://www.dreampossibility.com>